

学校名		福岡市立福岡西陵高等学校		学校経営方針・学校教育方針		今年度の重点目標		評価(総合)	
学校長	ふりがな	しみず	あきお	教育方針スローガン「君の働きを求められるその日のために」 (1) 学習指導, 生徒指導, 進路指導を一体的に推進し, 自己実現と社会貢献の一致を目指す進路保障に努める。 (2) 礼節をわきまえ, 誠実で責任感と協調性をもち, 愛と勤労を尊ぶ精神を涵養する。 (3) 個性を生かし, 自主的自発的な精神で生活を営む態度を養う。 (4) 人としての生き方なり方を追究させることを通じて人権尊重の意識を高め, 差別をなくす力を育てる。 (5) コミュニケーション能力を高め, 多種多様な情報を適切に収集・処理・発信できる能力を育てるとともに, 人として挨拶を基本に相互理解を進めるように指導する。		(1) 生徒の進路に対する目的意識をより明確にさせ, 進路実現を図る。 ①進路意識を育てる。②自分を知ることを促す。③広い視野から進路を決定させる。 (2) 教育環境を整え, 教育資源の活用に努める。 ①生徒の活動を高め保障する授業を行う。 ②生徒の学習環境を整える。 (3) システムとしての教育機能を高める。 ①出席改善指導及び風紀改善指導を継続して行い, 信頼される指導を確立する。 ②体系化された組織により, 特別支援教育の機能を高める。 ③国際理解教育の体系化と組織化を図り, 本校の特色としてふさわしい姿に育てる。		学校自己評価	学校関係者評価
	氏名	清水	昭男						
校長本校在籍年数		2年							
学校関係者評価委員会委員長	ふりがな	おち	のぶあき					C	C
	氏名	越智	信彰						

昨年度の成果と課題 教科指導, 進路指導, 生徒指導の充実と改善に取り組み, 進路実績の向上, 生徒の授業中の学習態度や出席状態, 通学中の態度, 生活規律の向上などに一定の成果が見られた。生徒の希望進路の実現のため, さらに生活規律を向上させ, 学習意欲を一層喚起し, 目的意識をもって学習に取り組ませる必要がある。

評価項目	目標及び具体的な方策等		学校自己評価	取組状況・成果・課題	学校関係者評価	学校関係者評価委員会からの意見等	今後に向けての方針・改善点
	目標	具体的方策					
教育課程・学習指導	基礎学力の定着と上級学校へ進学できる学力の伸長をめざす。	年3回の校内授業研究(教員相互の授業参観)を行い, 指導力の向上を図り, 授業改善につなぐ。 習熟度別学級編成や習熟度別授業の効果的な運用について研究する。(他校の状況の調査研究)	C	・授業公開はよい刺激となっているが, 全員年3回の実施ができていない。 ・習熟度別の指導については, 具体的な取組がほとんどできなかった。	C	・生徒たちに学習環境を自分たちでつくりだせることが必要ではないか。 ・生徒のモチベーションを高める指導の工夫が必要である。	・各学期毎の実施, 公開週間の設定, 教科毎の研究授業の実施等工夫する。 ・習熟度別クラスの教材開発, 定期的な現状報告会, 研修会を行う。
	学習環境を整え, 学校としての学ぶ雰囲気さをさらに高めるとともに, 家庭学習の定着をめざす。	教室の清掃や整理整頓, チャイムと同時の授業開始など授業規律の確立を全職員で徹底する。 家庭学習の実態を把握し, 担任と教科担当が連携して, 自学自習の習慣の確立に向けた指導を行う。	C				
生徒指導	生徒の基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上をめざす	主職員で出席改善指導及び風紀改善指導を継続し, 保護者と連携し, 指導対象生徒を各5名以下にする。 ホームルーム, 学年集会, 始業式, 終業式等において, 規律や礼儀を重んじる指導を徹底する。	B	・指導に対する全職員の意思統一が不十分で徹底した取組ができていない。 ・指導を一部の職員に任せるのではなく, 全職員での取組が必要。 ・生徒会役員はよく頑張っているが, 委員会活動の活性化が必要。 ・部活動生は, 模範生・リーダーになっているとは言えない状況である。	C	・学校に一定の緊張感が必要だ。厳しさが足りないように感じる。 ・ONとOFFの切り替えができていないのではないかと。 ・生徒になぜ必要か, なぜ大切かをわからせることが大事である。 ・どこかに焦点をしばって取り組むことで職員のモチベーションを高めることができるのではないかと。	・改善指導に対し再度職員で共通認識をもち, 全職員で厳しく指導を行う。 ・誰でもできることから全員で日々実践する。 ・挨拶運動など, 学校行事だけでなく, 日頃の学校生活でも生徒会が活動する場面を多くつくる。 ・部活動の顧問を中心に風紀面等でリーダーとしての意識付けを行う。
	部活動や生徒会活動など, 生徒の主体的な活動を推進する。	学年部及び各教科で, 定期考査や模擬試験の対策や結果分析を詳細に行い, 次の指導に生かす。 生徒一人ひとりの学力の到達状況を把握し, 面談等を通して個別指導を充実させる。	C				
進路指導	授業, 課外補習, 対外模擬試験等を通して生徒の学力の到達状況や伸長度を測り, 学習指導・進路指導に生かす。	大学での体験講座の実施やオープンキャンパス等への積極的な参加を促し, 生徒の進路意識を高める。 英語検定や部活動の模擬試験の受験資格の取得のため, 受験案内や詳細情報を各部で連携して提供する。	C	・オープンキャンパスにはよく参加していた。進路指導部を中心に受験情報は積極的に提供できた。 ・英検は, 教科担当を中心に積極的に受験の奨励が必要。	C	・大学入学が目的ではなく, 大学の先のことをしっかり考えさせる指導が大切である。	・進路指導部を中心に引き続き, 積極的に進路情報を提供していく。 ・進路指導部, 学年, 教科が連携して検定や模試の受験を奨励する。
	生徒の進路に対する目的意識をより明確にさせ, 進路実現を図る。	校内研修の実施や校外研修への積極的な参加により理解を深めると共に教職員の意識を高め 保健主事や特別支援教育コーディネーターを中心に教育相談機能と連携し, 推進体制を確立する。 障がいのある生徒の支援を通して, 障がいに対する理解を深め, 支援会議で支援の改善を図る。 生徒の変化の早期発見に努め, 気になる生徒の情報を共有し, 不登校, 中途退学者を減らす。	C				
特別支援教育	特別支援教育に関する共通理解と推進体制の確立を図る。	校内研修の実施や校外研修への積極的な参加により理解を深めると共に教職員の意識を高め 保健主事や特別支援教育コーディネーターを中心に教育相談機能と連携し, 推進体制を確立する。 障がいのある生徒の支援を通して, 障がいに対する理解を深め, 支援会議で支援の改善を図る。 生徒の変化の早期発見に努め, 気になる生徒の情報を共有し, 不登校, 中途退学者を減らす。	B	・職員の意識の深まりや, 推進体制ができつつある。 ・スクールカウンセラーを含めた関係職員の連携が図られてきている。 ・人権教育担当者を中心に職員がよく協力して取り組んだ。 ・教育相談委員会を中心に情報の共有化を図り, 中途退学者等を減らせている。	B	・特別支援教育については, 今後も取組を進めて欲しい。	・さらに積極的に情報を共有し, 今後も連携を深める。 ・研修会等を実施し, 特別支援教育に関する理解と意識をさらに高める。 ・全職員による協力体制をさらに深めていく。 ・一人の生徒を担当, 教科担任, 部活顧問等多くの職員が見守り, 情報を共有する。
	障がいのある生徒や課題を抱えた生徒に対する理解と支援の充実を図る。	保護者会, 進路説明会, 体育祭, 学校公開週間等の学校行事への保護者や市民の参加者を増や 同窓会やPTAとの連携, 学級だよりの発行や三者面談等により保護者との連携を深める。 中学校訪問, 体験入学, オープンスクール, 進路相談事業等において積極的に広報活動を行う。 Webページの内容の充実を図るとともに, 月1回以上の更新をめざす。	B				
開かれた学校づくり	保護者・地域との連携を深める。	保護者会, 進路説明会, 体育祭, 学校公開週間等の学校行事への保護者や市民の参加者を増や 同窓会やPTAとの連携, 学級だよりの発行や三者面談等により保護者との連携を深める。 中学校訪問, 体験入学, オープンスクール, 進路相談事業等において積極的に広報活動を行う。 Webページの内容の充実を図るとともに, 月1回以上の更新をめざす。	C	・学校のPR紙やポスターは, オープンスクールの参加者増につながった。 ・月1回の更新はできたが, もっと更新の頻度を高める必要がある。	C	・生徒が地域の行事に参加するなど, 地域に生徒の顔の見える取組ができていないかと。 ・生徒にWebページの更新を手伝わせるようなことも考えていいのではないかと。	・積極的に授業参観を呼びかける。 ・メール配信システムの導入など学校の情報を保護者により確実に提供できる方法を検討する。 ・引き続き, ポスターやPR紙の発行など広報に力を入れる。 ・学校HPの効果は大きい。学校行事の掲載などこまめな更新をする。
	中学生等に向けた積極的な広報活動を行い, 本校の教育活動をPRをする。	保護者会, 進路説明会, 体育祭, 学校公開週間等の学校行事への保護者や市民の参加者を増や 同窓会やPTAとの連携, 学級だよりの発行や三者面談等により保護者との連携を深める。 中学校訪問, 体験入学, オープンスクール, 進路相談事業等において積極的に広報活動を行う。 Webページの内容の充実を図るとともに, 月1回以上の更新をめざす。	C				

※ 学校自己評価は, 5段階評価(S…目標を大幅に上回る達成度, A…目標を上回る達成度, B…目標どおりの達成度, C…目標を下回る達成度, D…目標を大幅に下回る達成度)で成果や取り組み状況等について記入すること。
 ※ 学校関係者評価は, 学校自己評価について5段階評価(S~D)で評価すること。